

企画名：キネステティクスー持ち上げない体の動かし方を体験しようー
実施日：8月2日
講師：中本里美（ケアプログレス ジャパン代表・キネステティクスアドバンス教師）
企画実施組織：大城凌子・伊波弘幸
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>キネステティクスとは、行動サイバネティクスの理論に基づく動きの学問とされています。人間の「自然な動き」「動きの感覚」を人と人との関わり（コミュニケーション手段）に応用する概念として、1980年代から、欧州の看護教育に広く取り入れられ、日本では2000年以降に導入された比較的新しい技術です。一昨年、キネステティクスの認定プラクティショナーコースを受講し、これからの医療・介護職者だけではなく、「動く」ことの意味を体験的に学ぶことは、介助される側にとっても有益であることを実感しました。昨年度に引き続き、キネステティクス創始者であるフランク・ハッチ氏とレニー・マイエッタ氏が日本で唯一公認するケアプログレスジャパンの代表中本里美氏をお招きし、キネステティクスを体験的に学ぶ体験会を開催することで、地域の医療・看護・介護職のケアの質の向上に貢献できると考えます。</p>
企画実施報告
<p>1) 開催日時：2014年8月2日（土）9:00～12:00</p> <p>2) 場 所：看護学科棟 2階 実習室</p> <p>3) 内 容：講義・及び演習を含む体験講座</p> <p>①キネステティクスの概念を学び、日常生活において動くことの意義や、骨と筋肉を中心に、動きの感覚を体験的に学んだ。</p> <p>②介護・介助の負担を軽くするための体の動き、仕組みを受講生2人1組で体験学習をした</p> <p>③キネステティクスを活用した介護・介助法の普及及びケアの質の向上に向けた継続的学習企画の趣旨説明と参加へのPRを行った。</p> <p>4) 対 象：看護・介護職・教員（16名）</p>
企画の実施評価
<p>1) 受講生内訳</p> <p>介護施設管理者2名、介護士3名、看護師3名、教員4名、看護学生2名、他2名</p> <p>2) 意見・感想等</p> <p>①とても勉強になった、次回も第2弾を開催してほしい、今後の参考になったなど</p> <p>②さらに深く学びたい、沖縄でベーシックコースを開催してほしい等の要望</p> <p>③施設職員全員に伝えたい技術なので、ぜひ施設で研修を組みたい</p> <p>④知らないでケアすることは怖いと思った など</p>

※受講生の反応は概ね良好で、ケアに活かせる技術を体験的に学ぶことは、地域のニーズに応じた企画であると共に、ケアの質の向上に貢献できることが期待される。

今後の取組み

・本体験会は、キネステティクスのベーシックコース（3日間）の内容を、一部抜粋して体験できるように企画した。体験会に参加した受講生からは、もっと深く学びたいという声が多く聞かれた。

介護者の身体に負担がかからない介護技術として、キネステティクスを普及させていくためにも、県内で、ベーシックコース（3日間）の研修を開催する意義は大きいと考えている。体験会受講生から早速、県内でのベーシックコース開催を希望する声があり、9月~10月にベーシックコースを再開することになった。今後、大城によるミニ体験会を継続しながら、キネステティクスの技を普及させると同時に、継続的学習会開催に向けた企画を検討していきたいと考えている。